

化学の楽しさ感じて

尾去沢小 育てた花で染め物製作

鹿角市尾去沢小学校（駒ヶ嶺充校長）の4年生23人がこのほど、育てたマリーゴールドの花を使って手拭いを染め、化学の楽しさに理解を深めた。

同校ではかなやまフラワー運動として、児童がマリーゴールドをプランターに植えて育てている。2022年から化学に興味を持つきっかけになればと、マリーゴールドの花を使って手拭いを染めている。

同市花輪の認定こども園「わんぱくはつす」（杉江由美子園長）の杉江瞬さん（29）が講師を務め、染色の仕組みなどを説明。「身近にある花を使うことで化学の楽しさを感じてほしい」などと話した。児童は布に絞りを施し、マリーゴールドの染液で染め上げを行った。

は黄色、鉄媒染液で染めたものは黄銅色に変化。児童は同じ染液でも媒染液で色が異なることに、驚きの声を上げた。

た。染め上げられた布の絞りをほぐすと、それぞれの布に、白い模様が浮かび上がった。兔澤玲乃さんは「きれいな黄色に染まり楽しかった。化学の楽しさを感じた」と話した。製作した作品は、地域学習などで交流のある市民に12月の集会で贈られる予定。



マリーゴールドで染め上げを体験する児童（尾去沢小）